

～下田のデキゴト～



**4/30 下田市役所河内庁舎開庁式**

新庁舎の一部先行オープンに合わせて、下田高校生徒、稲生沢小学校児童と一緒にテープカットを行い、新庁舎での業務がスタートしました。地域に親しまれる庁舎を目指し引き続き新築棟の整備を進めます。



**5/10 稚鮎放流事業**

稲生沢川河川敷にて、天然鮎の遡上回復と豊漁を願う稚鮎の放流が行われ、稲生沢小学校の2年生が参加しました。河津建設(株)様にご協力をいただき、稲生沢川漁協組合員の皆さんと一緒に約20,000匹の鮎を稲生沢川に放流しました。



**5/12 第2回黒船アクアスロン**

まどが浜海遊公園において、黒船祭協賛行事「黒船アクアスロン」が開催されました。アクアスロンはスイムとランを続けて行う非常に過酷な競技で、参加者は県内外から約100名。参加者全員が全力で競い合いました。



**5/1 地域おこし協力隊委嘱状交付**

5月1日付けで、須藤航太さん(スポーツ振興)、鈴木和隆さん(情報発信)、高橋真希さん(観光客誘客促進)の、合計3名の地域おこし協力隊員を採用しました。今後、それぞれの分野での活躍が期待されます。



**5/10 上智大稲梓小国際交流事業**

昨年連携協定を結んだ上智大学の留学生9名が稲梓小学校を訪れ、5、6年生との交流を行いました。児童たちは元気よく英語で自己紹介や質問をし、スイスやアゼルバイジャンなど多くの国の話を聞き交流しました。



**5/12 消防団規律訓練**

下田小学校グラウンドにて消防団の規律訓練が行われました。団員100名に対し、自衛隊員6名、指導員12名による停止間と行進間の訓練が行われ、最初はぎこちなかった動きも徐々に洗練されていきました。

5月の できごと	4日 下田をきれいにする日	13日 台北外口・伊豆急ホールディングス友好協定締結式
	10日 上智大稲梓小国際交流事業	17～19日 黒船祭
	12日 黒船アクアスロン	22日 寿大学開校式
	12日 消防団規律訓練	26日 県知事選挙

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎072200



7月の予定

- 1日(月) 親子で楽しいリズム遊び  
講師：宮川幸子先生
- 2日(火) 七夕笹飾り製作
- 3日(水) 七夕笹飾り製作
- 5日(金) 七夕のお話
- 6日(土) 開館日 “これば!” 大型遊具で遊ぼう  
場所：市民スポーツセンター
- 8日(月) 体育館で遊ぼう 9:30～11:00  
場所：市民スポーツセンター
- 10日(水) プール遊び開始
- 12日(金) 子育て講話 \*午後閉館(清掃・消毒)
- 19日(金) 誕生会 10:30～
- 20日(土) 開館日
- 22日(月) 発育測定・育児相談 9:00～11:00  
保健師・栄養士来所
- 26日(金) \*午後閉館(清掃・消毒)

予定が変更になる場合があります。  
詳細は、支援センターまでお問い合わせください。



誕生会



体育館で遊ぼう

あじさいが鮮やかに色づきはじめ、梅雨の季節になりました。うとうしい雨の日が多くなりますが、晴れた日の青空は爽やかな気持ちにさせてくれます。また、この時期は湿度が高く蒸し暑い日が続くので汗をかき量も増えます。暑い日には帽子をかぶったり衣服の調節や水分補給などを心がけ、健康に過ごせるようにしていきましょう。どうぞ、子育て支援センターにも遊びに来てくださいね。



鯉のぼり製作



フローアの様子

こんにちは、市長です

「観光の本質」を考える

「観光」。観光客と下田市民で、その見方はずいぶん異なるように思います。しかし、これまでそうしたこととはあまり議論されてこなかった。そこで今回はそのことについて書いてみたいと思う。

まず観光客の見方、つまり外からの視点で観光をとらえると次のことが大切になる。一つ目は魅力づくり。たとえば景観を磨いたり地元食材を提供するなどその吸引力を高めること。次が情報発信。紙媒体はもとよりTV、インターネットなど多様なツールで魅力をPRすること。そして最後がネット予約や価格引下げ等の誘導。これらが一般的な観光の要諦であろう。

しかし、私たち受入れる側にとつての観光は少し違う。例えばホテルや旅館でお客様の泊まった部屋を掃除し、皿を洗い、ごみを捨てる。あるいは飲食店で日ごとに異なる客数に対しておいしい料理をしっかりと提供する。こうした地味で真面目な作業こそが

「観光」の基盤であり、これらを支えている人々はとても重要な存在だと思ふ。

そして、忘れてならないのが、私たちの町へ観光で訪れる人たちは、この地で身体も心もリフレッシュされる、つまり、下田に来ることによって幸せになるということである。「伊豆はあたたかく死ぬるによろしい波音」。放浪の俳人種田山頭火は、旅の果てに伊豆に来て死のうとする。しかし、彼はこの地で人々の優しさに触れ、生きようと思ひ直し、句をこう変えた。

「伊豆はあたたかく野宿によろしい波音も」(蓮台寺そぞろ歩き(渡辺氏)より) そうなのだ。私たちは、観光というコトを通じて人々を癒し、再生するお手伝いをしていくのだ。人生は苦しい。その苦しみを背負ってやって来る人々を暖かく迎え、幸せにして帰す。観光業とはそういう人間再生のお手伝いなのだ。この崇高な仕事を私たちは改めて再評価すべきと思うのです。

